

関西大学大学院理工学研究科 学生員 ○豊田 凌生  
元関西大学環境都市工学部 非会員 松井 月海  
関西大学環境都市工学部 正会員 林 倫子

## 1. 研究の背景と目的

近年、景観の特性を活かす取り組みが進み、とりわけ大規模工業地帯の景観には新たな価値が見出されている<sup>1)</sup>。一方、住工混在地域の景観は非日常性に乏しく、評価の対象となりにくい。しかし、こうした地域は地域経済を支える重要な基盤であり、小学校教育の地域学習でも取り上げられている。地元住民は幼い頃から地域に対する肯定的な視点に触れており、その景観にも肯定的な意味づけがなされうると考えられる。

村松ら(2021)<sup>2)</sup>は、無名の生活者によって醸成される客体としての生活景を「名もなき景観」と呼び、断片的な可視的形象が文脈づけられ意味づけられ、《景観》として成立する過程、すなわち情報が知識を引き出し更新するという、情報の知識化を伴う知識循環の過程を示した。(図-1 参照)

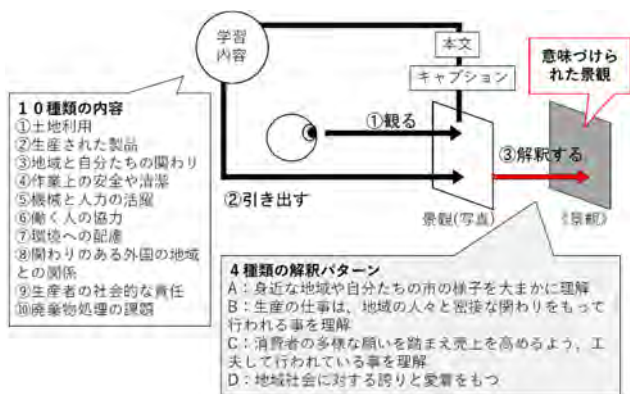


図-1 児童と住工混在地域の景観との間に生じる反応と両者の関係 (仮説)

本研究ではこの枠組みを援用し、地域学習で使用される社会科副読本に掲載された写真(景観)を「意味づけられた景観」として解釈するプロセスに着目する。このような《景観》

の形成過程から、住工混在地域の特徴とその景観に内在する豊かな意味性を明らかにすることを目的とする。

## 3. 学習指導要領の地域学習目標と副読本の構成

小学校3・4年の社会科は「地域学習」と呼ばれ、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うことを狙いとした学習である<sup>3)</sup>。社会科副読本は、学習指導要領と対応した単元構成となっており<sup>4)</sup>、掲載された写真は、地域での景観体験の代わりとなるよう、選定・掲載されたものといえる。よって児童は、副読本の写真を、本文で学んだ知識と文脈づけて意味づけて解釈し、地域の《景観》に対して愛着を持つことが期待されている。

本研究では、住工混在地域を有する大阪市・東大阪市・門真市に着目し、写真が多く掲載される傾向がある、最新の改訂と発行年の社会科副読本を用いる。分析対象とする写真は、住工混在地域の特徴を捉え、その地域で撮影されたことが確定できるものに限る。

## 3. 研究の方法

まず、住工混在地域の特徴的な景観を把握するため、副読本に掲載されている景観(写真)の分類を行う。次に、各景観(写真)の「学習内容」を把握するため、写真キャプションとその写真と関連する本文の段落を抽出する。そして、「副読本作成の手引き」<sup>4)</sup>記載の「学習の狙い」を基に、学習内容を①～⑩に分類し、その学習内容によって期待される児童による景観(写真)の「解釈」を、「学習指導要領」<sup>3)</sup>の目標をもとに4種類に分類する。(図-1 参照)最後に、「意味づけられた景観」として成立

した副読本の《景観》において、結びつく学習内容と解釈を生み出す点を赤丸で示し、その景観がもつ意味性を明らかにする。

#### 4. 考察

##### (1) 景観の分類

副読本で使用される景観(写真)は、【屋外(街全体写真)】【屋外(建物単体)】【屋内(作業の写真)】【屋内(工場の中の写真)】【屋内(製品の写真)】の5つに分類できた。屋外に比べ屋内の景観(写真)の方が多く(屋外18点、屋内71点)、屋内の中でも作業の場面(56点)が特に多いことから、住工混在地域の特徴的な景観は、工場で働く光景に多く見出されることが示唆される。そしてこれらの様子は外部に表出しづらい性質を持っていると言える。

##### (2) 住工混在地域の特徴と、その景観が持つ豊かな意味性



図-2 景観の種類例

##### a) 屋外(街全体写真)(図-2 a)に例示

10点中10点が俯瞰景であり、主に「①土地利用」の知識から、赤丸で示す住宅と工場の混在する特徴に着目し、住宅と工場の関わりについて想像していることが明らかとなった。俯瞰景が選ばれるのは、住工混在地域の特徴が広域的なスケールの景観でしか説明できず、また住宅と工場の建築物のボリューム感の対比を感じやすいためであると推測される。

##### b) 屋外(建物単体)(図-2 b)に例示

2点中2点が、工場で行われている生産活動の様子が工場の外観に現れている点に着目している。「⑩生産者の社会的な責任」の知識から、工場周辺が清掃されていることを認識し、負のイメージを持たれやすい工場の外観から、工場側の努力や地域への配慮を読み取っていることが明らかとなった。

##### c) 屋内(作業)(図-2 c,d)に例示

83点中64点が、働く人自身に着目し、「⑧仕事や役割、注意している事」の知識をもとに、cのような景観(写真)では、生産者の思いや消費者への配慮を読み取り、dのような景観(写真)では、安全や衛生への意識の高さを読み取っていることが明らかとなった。屋内(作業)の景観は点数も多く、様々な解釈を生む、特に豊かな意味性をもった景観といえる。

##### d) 屋内(工場の中)(図-2 e)に例示

4点中2点が、工場内の機械や道具に着目し、「⑩生産者の社会的な責任」の知識をもとに、工場の地域環境に対する配慮への気づきを得るという解釈を持っていた。外から見えない工場内部でも、工場側の工夫や地域への配慮を読み取っていることが明らかとなった。

##### e) 屋内(製品)(図-2 f)に例示

14点中8点が、様々な製品から「⑥働く人の協力」の知識をもとに、製品が届くまで多く人の協力があつたことを認識している。製品に込められた生産者の思いや責任を想起させるなど様々な意味を持った景観であることが明らかになった。

#### 5. 結論

このように住工混在地域の特徴的な景観は、屋内に多く出現し、働く人の作業の光景に多く見出されていることが示唆された。

<sup>1</sup> 岡田昌彰：テクノスケープ 同化と異化の景観論(景観学研究叢書)，pp.20-47，鹿島出版会，2003。

<sup>2</sup> 村松美邑、後藤春彦、山村崇、林廷玟：外国人観光客が捉える「名もなき景観」の価値と景観の意味解釈の構造-韓国入リピーター観光客の語りの分析を通して-，日本建築学会計画論文集 第86巻 第786号 pp.2125-2135，2021。

<sup>3</sup> 文部科学省：【社会編】小学校学習指導要領(平成29年告示)解説，2017

<sup>4</sup> 教育出版株式会社編集局：小学校社会科教授資料 第3学年・第4学年 地域副読本作成の手引き，2019